

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成26年5月29日(2014.5.29)

【公開番号】特開2012-218415(P2012-218415A)

【公開日】平成24年11月12日(2012.11.12)

【年通号数】公開・登録公報2012-047

【出願番号】特願2011-89832(P2011-89832)

【国際特許分類】

B 2 9 C 59/02 (2006.01)

B 2 9 C 59/00 (2006.01)

G 0 2 B 5/10 (2006.01)

G 0 2 B 5/08 (2006.01)

G 0 2 B 3/00 (2006.01)

G 0 3 B 21/60 (2014.01)

B 2 9 L 7/00 (2006.01)

B 2 9 L 11/00 (2006.01)

【 F I 】

B 2 9 C 59/02 Z

B 2 9 C 59/00 F

G 0 2 B 5/10

G 0 2 B 5/10 C

G 0 2 B 5/08 A

G 0 2 B 3/00 A

G 0 2 B 3/00 Z

G 0 3 B 21/60 Z

B 2 9 L 7:00

B 2 9 L 11:00

【手続補正書】

【提出日】平成26年4月11日(2014.4.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

熱可塑性を有するフィルム状の基材を含むアレイ基板の製造方法であって、  
前記基材に、各々が前記基材の厚さの0.25倍から2倍の孔径の複数の孔を、前記孔径の5倍から40倍の間隔を有するようにそれぞれ互いに離間して形成する孔形成工程と

、  
複数の凸部または凹部がアレイ状に形成された型部材を加熱し、前記複数の孔が形成された前記基材を押圧することによって、前記基材に前記複数の凸部または凹部を転写する転写工程と、を備えることを特徴とするアレイ基板の製造方法。

【請求項2】

請求項1に記載のアレイ基板の製造方法であって、  
前記孔形成工程は、鋭頭を備える棒状部材を加熱して前記基材を押圧することによって、前記孔を形成し、  
前記転写工程は、前記孔が形成された前記基材を加熱し、前記基材を押圧することによ

って、前記基材に前記複数の凸部または凹部を転写すること、  
を特徴とするアレイ基板の製造方法。

【請求項 3】

請求項 1 または請求項 2 に記載のアレイ基板の製造方法を用いて製造されたことを特徴とするアレイ基板。

【請求項 4】

投射光を反射するスクリーンの製造方法であって、

請求項 3 に記載のアレイ基板に形成された複数の凸部または凹部に対し、前記投射光を反射させる反射膜を形成する反射膜形成工程を備えること、を特徴とするスクリーンの製造方法。

【請求項 5】

請求項 4 に記載のスクリーンの製造方法を用いて製造されたこと、を特徴とするスクリーン。